



日本の名城シリーズ その6

山形城 山形市霞城町にあった城で別名霞城(かじょう)、霞ヶ城(かすみがじょう)と呼ばれる。国の史跡に指定されている。(写真は復元した二の丸東大手門)

おおよそ基礎は、最上義光の時代に造られ、鳥居忠正の時代に現在の形に整えられたものである。江戸時代には山形藩の政庁が置かれた。日本国内では5番目の広さで、奥羽地方では最大の城であった。しかし、度重なる藩主交代に伴って石高が削減され、山形藩にとっては維持することが困難となる広さであった。現在は、そのほとんどが失われ、二の丸跡が霞城公園として残されている。建造物では、大手南門が、市内の万松寺山門として移築され現存する。また、市内八日町宝光院の本堂は、御殿の建物を移築したものであると言われている。(県指定文化財)

山形市は、2033年をめどに本丸全体の発掘調査を完了させるとともに、本丸北枡形の復元を完了させる計画をしている。

築城 1356年 廃城 1876年(明治4年)(ウィキペディアより引用)



平成28年度第18
回定期総会に於いて
三代目となる支部長
の任命を受け、引き受
け就任しました「32M
卒の坂巻 実」です。

支部長を引き受けて早くも1年が経過しようとしている昨今です。ご存じのことと思いますが、東葛支部の初代支部長は26C卒の立崎作次氏、二代目は32E卒の吉田勝彦氏と続き、18年を迎える事になります。人生に置き換えると正に成人式を迎えようとしている支部の現状です。

先輩支部長の方針及び活動を引き継ぎながら、新しいことにも挑戦する気持ちを持って邁進して行こうと思っていますので、会員の皆様並びに同窓会諸氏の皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

同窓会の初代支部設立は南総支部で、昨年40周年を迎え盛大な式典が開催されました。現在は7支部で運営され我が東葛支部は一番若い支部ですが、若い人たちの入会もほとんどなく高齢化が進んでいます。支

部活動を発展させるには、各支部との交流、支部活動の活性化と新会員の勧誘が大事と思われま

す。当支部は、県外地区もエリアに含まれていますので、同級生やクラブ活動を一緒にした同窓生に声をかけ、入会の勧誘をして頂きたいと思

います。会員一人一人の努力が必要で大事な事だと思

います。会員の皆様も後期高齢者が多くなってお

- 年を重ねるだけでは人は老いない、理想を失う時に初めて老いが来る。
- 青春とは人生のある期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。
- 歳月は皮膚のしわを増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。
- 人は信念と共に若く、疑惑と共に老いる。
- 希望ある限り若く、失望と共に老いる。

西船橋で新年会開催

金子 賢二(34M)

冬晴れの上天気に恵まれた平成29年1月13日(土)、西船橋北口から京成西船橋に向って徒歩5分、千葉街道を渡った先のビル2階に今年の新年会会場「ミライザカ」はあ

つた。昨年と同じ会場で開催したが、その時は「和民」の名だったと記憶している。

店は我々のために13時開店としてくれた。定刻には参加予定者10名が揃い、まずは

「新年おめでとう。乾杯!」のジョッキを打ち
ならす。



新年を迎えた参加者皆さんの晴れ晴れと
した様子は、少人数ながらも和気あいあいの
東葛支部新年会を盛り上げていた。一時、
冷たいビールを飲みながら近況を語り合い、
参加出来なかった会員の動向などが報告さ
れた。

卓上に惣菜が並んだところで、坂巻支部
長から定例会の議事録に則って、昨年11月
に開催された千葉工業高校80周年記念式
典と祝賀会、12月の本部主催のハキングの
模様が報告された。続いて本年度の各支部
定期総会への参加者を募り、6支部に2名ず
つの参加者を決めた。

また、当支部の定期総会日程、恒例の
バーベキュー大会は新装なった「セブンパー
ク・アリオ・柏」での開催を予定、新行事とし
て「男の料理教室」開催を目指しての準備に
ついて話し合った。

議事終了後は、温かな鍋料理に舌つづみ
を打ち、刺身や焼き鳥の酒肴で酒を酌み交
わし、東葛支部のさらなる発展を誓い合った。

同窓会ハイキング (亀山湖と三石山観音の思い出)

中村 軍治(32M)

好天に恵まれた平成28年12月3日(土)8
時30分蘇我駅より山九交通の中型バスに乗
り込みました。当支部からは坂巻氏、伊橋
氏、筆者中村の3名。既に千葉駅から10数
名、途中五井駅より数名、参加者合計24名
(内女性1名)の団体となった。

バスはちょっと旧式で通路途中で段差が
あり、年のせいか何度もつまづく者もあり、転
倒しなかったのが幸いでした。

バスの出発から1時間後に館山道の市原
SAにて小休止、姉ヶ崎ICから一般道へ、道
の駅、造り酒屋で地酒仕入タイム、君津市の
亀山湖到着は11時頃でしたが、昼にはまだ
早い到着となりました。

駐車場の「亀山やすらぎ館」には南総支
部の鳥飼氏、長谷川氏の両名が出迎えてく
れました。記念の集合写真を撮り、先ず1時
間かけて亀山湖中央部を一周しました。天
候は寒くなく、厚くもない絶好のハイキング日
和であり、種々の紅葉、黄葉が湖面に映えて
見事であった。



数年前になりますが、会社関係の千工旅行会で亀山観光ホテルにて食事をした時は、時季的な関係からこのような紅葉の素晴らしさを感じなかった。一周後駐車場広場や、バス内で各自持参の昼食を摂り、次のコースに挑戦した。三石山へは車道で「縁結びコース」と称し、上り坂が山裾を縫うように続き、とうとう休まず2時間近く登りつめた。(バスに乗車して登頂した人も)頂上の観音寺は



山の名のとおり三個の巨岩が屋根半分に覆いかぶさる様に建立され、不思議な光景でした。

同行した千葉支部の人によると、以前海苔の生産をしていた時、正月には安全と豊作を祈願するため、道なき道を登り、この寺にお参りしたとの話を伺いました。

それ程神秘感を味わえる所と思いました。付近に住居がないのも、山の信仰が維持されているのだらうと思います。

縁結びの祈願の為に奥ノ院にハンカチを奉納する塔があり珍しい光景でした。

帰りは全員バスで下り15分くらいで湖畔に到着。15時頃帰路に着き、車中では小宴会となり、千葉駅には17時頃の到着となりました。

計画された関口氏、腕木氏感謝。

スーパー紙とんぼ

鎌形 武久(33C)

「スーパー紙とんぼ」のほかに「スーパー竹とんぼ」も作って15年、その数は、約約1万5千機。その作り方はナイフをつかわず、市販の機械、道具の多用治具による量産技術。

1. 「スーパー紙とんぼ」については、13年前に日本で初めて1冊の本を書き、今までに10数万機を作り、数多くのテレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ミニコミ誌等に取り上げられました。また、仲間とともに、作り方や飛ばし方を教えた数は延べ、8万8千人にも達しています。そのため、紙とんぼについては



私自身、日本一と自負してきました。

2. しかし、一方「スーパー竹とんぼ」は、紙とんぼの約10分の1にあたる、年間1000

以上作っているにもかかわらず、紙とんぼの陰に隠れ、国際竹とんぼ協会千葉本部の活動や特別な依頼を除き、作り方の指導はあまりしていません。各種の協議大会にも参加せず、マスコミにも取り上げられることもなく、全くの無名です。3.しかし、昨年国馬前校長のお蔭で、7月、全国工業高等学校長協会主催の全生徒海外研修で、ベトナムのハノイ職業訓練短期大学との交流や、さらに鈴木校長の依頼で11月末に送ったスーパー竹とんぼが千葉工業高校生の台湾研修で、国立勢高級職業学校と新北市立復中学校との交流に使用され、飛行距離、時間等で驚き、生徒同士の距離が縮まるきっかけとなった。とのことです。

4. そうですね、昨年、県立房総のむら「稲穂まつり」では千葉大学の先生が学生に(飛ばして)見せたいと象眼入り、「スーパー竹とんぼ」を、日比谷公園の「土と平和の祭典」でも東京の高等学校の先生が生徒に見せたいと、双方シューター付きで購入してきました。

5. なぜ、私の作った「スーパー竹とんぼ」が高校、大学の関係者にも知られるようになってきたのか、その原因は飛ぶ高さの性能、飛ばし機(シューター)の開発、量産する技術により、一般に提供され、誰もが目につくようになったからではないか、と思います。

6. スーパー竹とんぼを作るにあたり、私の目標は量産も考え、種類を減らし、100点満点を目指すのではなく、70点程度で充分との考えでした。そのため、飛ぶ高さは手では10～15メートル、シューター使用で30～40メートル程度と定めた事です。

7. 長い間、エンジニアとして会社で培ってきた経験から、良く飛ぶ原理と最も合理的に作る方法を考えました。その結果、流体力学や慣性の法則の応用した形状、各加工行程ではナイフを使わず、市販の機械、道具の多用、専用の治具による省力化による量産でした。

8. 揚力を向上させるため、羽根の仰角は約30度、シューター等による回転速度の向上、慣性力を上げるために、極力羽根の中央を軽く、周辺を重くする(厚みや象眼)。エネルギーロスを減らすため、バランスをよくし、軸の重さ、長さをギリギリにする。

9. 専用治具、には、(竹とんぼの形状の専用ゴム印、ひねり治具、ニツパ)

10. 動力の使用(竹の切断は丸鋸。穴開けはボール盤。板厚の調整は電動かんなやベルトサンダー、ラインの削りは、ベルトサンダーやマイクロディスクサンダー、溝切りは、電動糸ノコ、羽根の過熱は、ホットエアガン)…等です。

11. 「スーパー竹とんぼ」自分で作るのが中

で、作り方の指導は少ないのですが、主なところを上げると、千葉竹とんぼ倶楽部、東葛支部やスーパー紙とんぼ会の会員に対するスーパー竹とんぼ教室、過去15回程度、約150名。千葉少年航空団(成田市中央公民館)スーパー竹とんぼ、紙とんぼ教室2011年

2/13 8名。

千葉大学農芸学部 環境健康フィールド科学センター 4回 25名。竹とんぼ作り指導者講習会 柏の葉公園、松戸キャンパス、戸定祭 2010年3/29(月)・4/9(金)・10/30(土)・11/5(金)

東京情報大学 吉田ゼミ(学芸員課程)ワークショップ授業 2013年 12/6(金) 21名

県立市川工業高等学校 土産用のスーパー竹とんぼ作り

フィリピン・セブ島 生徒海外研修生 2015年7/9(木) 10名

12. そして、今までに作ったスーパー竹とんぼの行く先は…

(1) 知人、友人、同窓会や懇親会等各種

の集まりでのプレゼントや景品。(2) 紙とんぼに関連して協力してくれたボランティアに対する謝礼。(3) 毎年行われる小金南中の三世代交流会に備えた指導者養成授業のプレゼント。(4) 高校のイベントや生徒海外研修への提供協力(日本の文化として)。(5) イベントでの販売やデモンストラクションでの利用(飛んで紛失も)。(6) 県立房総のむらの売店で商品としての販売や紙とんぼの教え子による東京の観光地での販売。(7) 竹とんぼ作り用素材。(8) 余った竹とんぼは在庫として保管…等です。

13. 当面、これからの活動に目標は設けておりませんが、2017年1月22日(日)の国際竹とんぼ協会千葉本部の技能研修会で、講師を務め、私流竹とんぼ作りを解説しました。いずれ、私のスーパー竹とんぼ作りの技術が生かされる機会があるかも知れません。それまでは、今まで通り健康に気をつけて、紙とんぼ、竹とんぼ作りの活動を続けたいと思っております。

碁久楽のこと

高橋 健一(29C)

早いもので私が碁会所「碁久楽」の経営を引き受けてから16年になります。

スタート時から今日までメンバーは全く変化ありません。ただし周囲の環境は様変わり、近隣の公民館、福祉会館等で1日100円

で気楽に楽しめる所が増え、1週間毎日どこかで碁が打てますので、新規会員の獲得は望めなくなっています。

当然ながら会員の高齢化による減少で部屋代を支払うのがやっとなという状況が続いてい

ます。スタート時10級から五段くらいの棋力が二段から六段になり、逆に初心者がとっつきにくくなっています。

さて、話題を変えましょう。碁久楽からは2人のプロ棋士が誕生しています。

一人は高橋真澄君、平成13年中1で来所、碁を教えてください。ヒカルの碁で興味を持ちましたのこと、後にヒカルの碁世代と呼ばれ多くのプロ棋士が誕生しています。(私自身この漫画は読んでいない)

教え初めて1年で七段、中学生囲碁名人選の千葉県代表、全国大会ではベスト16の結果を納め、その後高校進学せずにプロを目指し、アマ名人戦、本因坊戦、世界選手権千葉県代表などを経験、日本棋院のプロテストに挑戦、平成21年5回目に合格、プロ棋士の門下生にならずにプロ棋士になりました。そして今年2月に三段になりました。もう一人は真澄君より2歳年上の大熊悠人君、碁久楽休日の火～水曜日に徹夜で研究会をしていました。2子置かせて1回対局したこと

がありますが、彼は専大に進学、学生碁会で活躍、その後関西棋院のプロテストを受け、研修棋士としてプロの道へ踏み出しています。また彼は千工会囲碁同好会の会員で、佐倉在住の稲生さんが指導したことがあるとのことで、後援会を作り応援している旨連絡がありました。

流山か佐倉市や東京、長崎に転居し、現在老人ホームで悠々自適の生活を送っている、碁久楽のお客さんがいますが毎日ホームで、あるいは近くの自治会館で囲碁を楽しんでいるそうです。

囲碁は年齢に関係なく何時までも楽しめる競技、頭の体操ボケ防止、長生きの秘訣、70歳で覚えても2～3年で有段者になった方もいます。皆さん今からでも遅くはありません、囲碁を覚えませんか！

最後になりますが、4月、7月、10月、1月第4火曜日に西千葉にて、千工会囲碁同好会が開催されています。同行の士是非ご参加をお待ちしています。

我が居住地溝口について

土屋 孝夫(34M)

古く江戸時代から宿場町として、また「大山詣で」の拠点として栄えてきた溝口。1997年には駅前に再開発の目玉としてNOCTYが完成し、ショッピングスポットとしてますます便利になりました。

その一方、江戸時代や明治時代から続く商家も残されていて、新旧入り混じった不思議な情緒が漂っている。また多摩川を初めと

した自然にも恵まれた土地で、住みたい街としても人気上昇中。

江戸時代より前、溝口を含む一帯は武蔵国橘樹郡と呼ばれていた。江戸時代には溝ノ口村という地名が誕生した。

東海道が開かれる以前は、江戸赤坂門から足柄峠を経て駿河国沼津宿までを結ぶ足柄道が利用されていた。この足柄道と府中

街道が交差する場所に溝口の集落が出来た。江戸時代中期には、大山阿夫利神社への参拝旅行「大山詣で」へ出かける道として利用される様になり、また厚木方面から江戸方面への荷物の中継点となるなど、商業および物流の中継地点としても発展した。

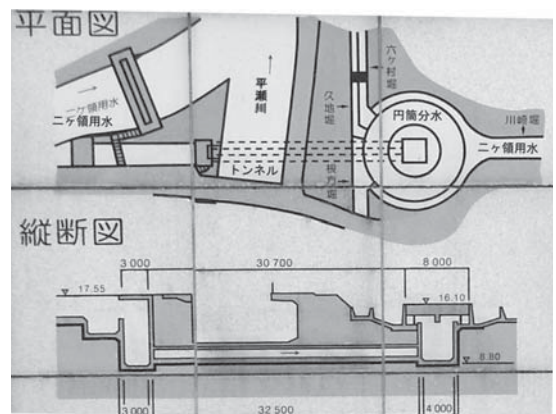
昔は原野であったこの地、1590年に多摩川が大洪水を起して流路を変えたことから、新たに農業用水を引き、水田を開発するために作られた。この用水を用いて栽培された米は、三代将軍家光が鷹狩りに来た時に賞味し、以来将軍家の御飯料になった。後に稲毛米と呼ばれ、江戸ですし飯として大人気だったそうです。

現在二ヶ領用水と呼ばれている用水は、関ヶ原の戦いがあった3年前1597年に測量が始まり、その2年後に開削工事に取り掛かった。完成したのは測量開始から14年後の1611年となった。この用水工事をおこなった人は、徳川家康の家臣で、小泉次太夫という人である。現在のように機械などまったくない江戸時代、用水掘りはひたすら人の力で行われた。クワやスキで土を掘り、モッコに入れて運び、土手などを造った。このように実際に用水路を掘って行ったのは、地域の農民たちであった。こうした作業を10数年間も続けた農民たちの苦勞のたまものと言える。

地域の水田が開拓されてくると当然水が必要となり、渇水期には二ヶ領用水の水の取り合いで騒動が頻発に起きた。そんな騒動を

解決するために、平賀栄治氏(1892年甲府市生まれ。東京農業大学農業土木学科を卒業し、宮内省皇室林野管理局、農商務省等の勤務を経て、1940年に神奈川県が多摩川右岸農業水利改良事務所長に就任。多摩川の上河原堰や宿河原堰の改修、平瀬川と三沢川の排水改修、そして円筒分水建設等に携わった。川崎のまちを支える水の確保に全力を捧げた「水恩の人」は、1982年、89歳の生涯をとじた。)が設計され手がけたもので、1941年に完成した円筒分水により、地域の耕作地の広さに寄り、水の、分配が行われ水騒動はなくなった。

この世界に冠たる独創的な円筒分水は、多摩川から取水された二ヶ領用水を平瀬川の下をトンネル水路で導き、中央の円筒形噴出口サイフォンの原理で流水を吹上げさせて、正確で公平な分水比で各地域へ泉のように用水を吹きこぼす装置により、渇水期に多発していた水争いが一挙に解決した。円筒分水は1998年6月9日に国登録有形文化財となっている。



平賀栄治氏設計、手がけた円筒分水の構図

読書 ～つれづれなるままに～ 徒然草(4)

第九十三段 生と死は隠れたコンビ 牛を売る者

(原文)

「牛を売る者あり。買ふ人、明日その価をやりて牛をとらむと言ふ。夜の間に牛死ぬ。買はむとする人に利あり、売らむとする人に損あり」と語る人あり。これを聞きて、片方(かなた)なる者のいはく、「牛の主、まことに損ありといへども、また大きな利あり。その故は、生あるもの、死の近きことを知らざること、牛既(すでに)しかなり。人また同じ。はかるざるに牛は死し、はかるざるに主は存ぜり。一日の命、万金よりも重し、牛の価、鷲毛(がもう=ガチョウの毛)よりも軽し。万金を得て一銭を失はむ人、損ありといふべからず」と言ふに、皆人嘲りて、「その理は、牛の主に限るべからず」と言う。

またいはく、「されば、人死を憎まば、生を愛すべし。存命の喜び、日々に楽しまざらむや。愚かなる人、この喜びを忘れて、いたずらはしく外の喜びを求め、この財を忘れて、危ふく他の劑をむさぼるには、志満つことなし。生ける間生を楽しまざるは、死を恐れざる故なり。恐れざるにあらず、死の近きことを忘るるなり。もした、生死の相にあずからずといはば、まことの理を得たりといふべし」と言ふに、人いよいよあざける。

(訳)

「牛を売る者がいた。買う者は、明日代金を払って牛を引き取ろうという。ところがその夜、牛が死んでしまう。とすれば当然、買う者は代金を払わずにすんで得をし、売る者はその分損をしたことになる。」と語る者がいた。この話をそばで聞いていた男が、「確かに牛の持ち主は損をしたことになるが、一方で大きな得をしている。その理由はこうだ。命あるものが、迫りくる自分の死に気づかないのは、この牛がいい見本だ。人間もまたじ。何の予感もなく牛は死に、何の予感もなく持ち主は生きながらえた。この牛の死によって、持ち主は、一日の命はどんな大金よりも貴重であり、ところが、牛の代金なんぞ鷲鳥の羽よりも軽いことを悟ったのだ。だから、どんな大金よりも重い一日の命を得て、軽い牛の代金を失った持ち主が、損をしたといえるはずがない」と言った。

すると、その場の人々は皆、この男を馬鹿にして、「そんな理屈があてはまるのは、なにもこの牛の持ち主だけに限るわけではない。今こうして生きてる者は皆、得をしているじゃないか」と言い立てた。

男は、人々のあざけりを見捨て、つづけて言うには、(そう言う訳で、人間誰しも、死ぬのがいやならば、だからこそ、今ある命を愛すべきなのだ。命ながらえる喜びを、毎日たいせつに楽しまなくてはいけない。愚かなる人間

は、この楽しみを知らず、物欲に振り回されてあくせくしている。命と言う宝を忘れて、やたらと快樂や金銭と言う別の宝ばかり追い求めては、いつまでたっても心満たされることはない。そんなふうにして、生きてる時に、生きる喜びを楽しまないで、いざ死ぬ時になって死を恐れるならば、私の言う理屈とは合わない生き方をしていることになる。

つまり、誰も生きる喜びを楽しもうとしないのは、死を恐れないからだ。いや、死を恐れないからでなく、人間はいつも死と隣り合わせに生きていくという自覚がないからだ。あるいはまた、それが、生きるとか死ぬとかいう次元にとらわれなくて生きているというのなら、それこそは人生の心理を悟っているといつてよい」と語ると、人々はいっそう男を馬鹿にしてわらった。

(まとめ)

死「無常」は生を引き立てる伴侶だと、男は言う。死があるからこそ、生の価値はいよいよ輝く。こうした自覚を持たず、ただ死を恐れ憎むのは、本物の生ではなく、欲望にまみれた偽物の生だからだ。死と一緒に生きる覚悟が、生きるありがたさを自覚させる。死を恐れ憎むのは、筋違いで、むしろ人生の心理を自覚させてくれたことに感謝すべきだ、と。

しかし、金銭欲にまみれた一般人の前で、男の死生論は空回りするばかりで、嘲笑を浴びてしまう。

この地球上の、草木、動物、鳥、虫、などの全ての生き物は「生と死」は一帯で、分離出来ないものだ。「生と死」は個々に備わり、長命、短命があり、DNAのように同じでない。

この男は兼好の分身とみて間違いはないであろう。



(参考文献 角川書店 徒然草)
(記 34M 坂巻 実)

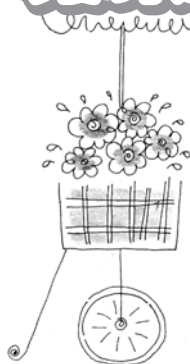
●皆様の趣味や得意とするものをご連絡下さい●

会員の皆様は、色々な趣味をお持ちだと思いますが、比較的ポピュラーと思われるものについて、役員の中かで一応の担当者を決めています。会員の皆様のご趣味・得

意な分野・特技などを把握し、色々な行事や交流にお誘いしたいと考えています。趣味や得意な分野が一致した方は、それぞれの担当者までご連絡下さい。

● ゴルフ	土屋 孝夫	〒213-0001	川崎市高津区溝口3-18-17	TEL.044-844-2767
● ハイキング 釣 り	土屋 孝夫	〒213-0001	川崎市高津区溝口3-18-17	TEL.044-844-2767
● 囲碁・麻雀	高橋 健一	〒270-0157	流山市平和台5-400	TEL.04-7159-9367
● スーパー 紙とんぼ	鎌形 武久	〒270-2241	松戸市松戸新田21-3	TEL.047-364-5084
● 茶 道	富田 博	〒272-0015	市川市鬼高3-12-39-516	TEL.047-393-0850

今後の予定



東葛支部の予定

平成29年
 5月26日(金) 15:30～
 定例会議(高柳近隣センター)
 6月11日(日) 13:00～
 第19回支部定期総会
 (我孫子・鈴木屋本店)
 7月(日時未定)
 定例会議(高柳近隣センター)
 9月20日(水) バーベキュー会
 場所: 柏セブンパーク・アリオ
 11月15日(水) 「男の料理教室」
 講師決定(高柳近隣センター)

本部・他支部関係の予定

平成29年
 5月9日(火) 14:00～
 常任幹事会
 5月11日(木)
 創立記念講演会(平山善吉氏)
 5月27日(土)
 同窓会幹事会
 6月25日(日)
 同窓会(JFE みやざき倶楽部)
 6月27日(火)
 第一回 支部長連絡会(水の音倶楽部)
 9月28日(木)
 第二回 支部長連絡会(千工会館)

編 集 後 記

何時も、編集に携わる人間にとって、この編集後記は頭を悩ますページです。

さて、どこの支部に限らずまた、同窓会に限らず、会員の減少、高齢化の話が話題になっています。今後、新しい支部会員を増やすにはクリアしなければならない問題点が何点かあると思います。まずは、年会費の件、会にかける時間の点があると思います。今後新会員を期待する場合、少しでも会費を安く、手間(時間)のかからない運営方法を模索していかなければ新しい会員増が見込めないのではと思っています。

この問題の解決方法として、支部運営の中にIT(パソコン)の導入が考えられるのではないのでしょうか。現在、当支部ではホームページとEメールを使い、支

部運営を行っていますが、もっと効率の良いITの使い方を考えていかなければならないと思います。ではどのような方法かといえば、Eメールも現在では、個々にアドレスを打ち込む方法では無く、メーリング(一括登録)方式に変え、情報発信の手間を省き、個々の情報を多く発信できると思います。又ホームページを利用した会報の発行を行い、少しでも通信費の出費を抑える事が出来ると思います。同窓会支部の存続には、会員増を見据えた方向性がどうしても必要です。今後支部内でメールの件、年会費の件を提案して行きたいと思っています。

前回28号の「編集後記」でも述べている通り、「人と人との繋がり」が自分の成長の源になるのではと思い、今後も生活に役立つ支部活動を行っていく所存です。

新入会員募集と入会手続きについて

東葛支部では、会員を増やしてどんどん組織を大きくしていきたいと思っています。このため、役員の中に「会員増促進委員会」を作って活動しています。

会員の皆様の仲間で、会員資格のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ入会を勧めて下さい。

1. 入会資格 千葉工業学校、千葉工業高校、および同校併設中学校の卒業生、ならびにかつて同校に在勤、在学していた方で支部長が認めた方。
東葛地域に居住している方及び千葉県外に居住している方、または出身が同地域の方、同地域に勤務されている方。
2. 会 費 年会費 3,000円
3. 入会手続 役員へ入会申込みされますと郵便振替用紙をお送りしますから、年会費3,000円を振込願います。

支部会報第30号の原稿募集

東葛支部会報第30号の原稿を募集します。

1. 発行予定 平成30年4月
2. 原稿締切 平成30年2月
3. 内 容 母校の思い出・恩師の思い出・私の職場・私の仕事・私の趣味・私の特技・旅日記・近況・クラス会模様・エッセイ・呼びかけ・イベント報告 等、何でも結構です。
4. 投稿方法 卒年科・ご氏名を記入の上、郵便・FAX(自動受信)・E-mailのいずれかでご投稿下さい。
5. 投稿先 編集委員長 中村軍治 〒277-0921 我孫子市我孫子2-4-1
TEL:04-7182-3779 E-mail:nakagu@jcom.home.ne.jp
編集委員 土屋孝夫 〒213-0001 川崎市高津区溝口3-18-17
TEL:044-844-2767 E-mail:golf-t@tbn.t-com.ne.jp
編集委員 富田 博 〒272-0015 市川市鬼高3-12-39-516
TEL:080-6532-9506 E-mail:c-tomi@rr.em-net.ne.jp

東葛支部会報

第29号

発 行	平成29年5月1日
発 行 者	千葉工業同窓会 東葛支部
発行責任者	支 部 長 坂 卷 実
事 務 局	事務局長代行 富 田 博
編集責任者	編 集 委 員 長 中 村 軍 治